

会社概要

会 社 名 協和キリン株式会社
所 在 地 〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目9番2号
(大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 17F)
設 立 1949年7月1日
資 本 金 26,745百万円
従業員数 5,393人 (連結ベース)
事業内容 医療用医薬品の製造・販売を行う事業持株会社。

役員

取締役会長	花 井 陳 雄 ^{*1}
代表取締役社長	宮 本 昌 志 ^{*1}
代表取締役副社長	大 澤 豊 ^{*1}
取締役専務執行役員	三 箇 山 俊 文
取締役	横 田 乃 里 也
取締役	瓜 生 健 太 郎 ^{*2}
取締役	森 田 朗 ^{*2}
取締役	芳 賀 裕 子 ^{*2}
常勤監査役	清 水 明 ^{*3}
常勤監査役	小 松 浩
監査役	新 井 純 ^{*3}
監査役	井 上 雄 二 ^{*3}
監査役	桑 田 啓 二

*1 執行役員兼務 *2 社外取締役 *3 社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 987,900,000株
発行済株式の総数 540,000,000株
株主数 32,623名

大株主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
キリンホールディングス株式会社	288,819	53.79
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	41,517	7.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	23,838	4.44
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	6,809	1.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	4,605	0.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口7)	4,316	0.80
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	4,278	0.80
ジェービー モルガン チェース バンク 385151 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	3,951	0.74
ステート ストリート バンク ウェストクライアント トリーティー 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	3,951	0.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	3,715	0.69

株主メモ

事 業 年 度 1月1日から12月31日まで
定 時 株 主 総 会 毎年3月
基 準 日 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
口 座 管 理 機 関 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
おおよび電話照会先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル 0120-782-031
(受付時間) 土日休日を除く9:00~17:00

公 告 方 法 電子公告の方法により行います。
ただし、やむをえない事由により電子公告をすることが
できない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ウェブサイト
<https://ir.kyowakirin.com/ja/>

証 券 コ ー ド 4151

当社 WEBサイト のご案内

当社WEBサイトでは最新のニュースリリース、
IR情報をご覧いただけます。

<https://www.kyowakirin.co.jp/>

※これまでの株主通信も「株主・投資家の皆様」のページ
よりご覧いただけます。



スマートフォンをお使いの方は
右記のQRコードから当社WEBサイトにアクセスいただけます。



Kyowa KIRIN REPORT 2019

2019年1月1日 ▶ 2019年6月30日



協和キリン株式会社
代表取締役社長
宮本 昌志

「Kyowa Kirin」ブランドの医薬品で、 世界中の患者さんの健康と豊かさに貢献してまいります。

昨年はグローバル戦略品であるX染色体連鎖性低リン血症（XLH）治療薬Crysvitaと皮膚T細胞性リンパ腫治療薬Poteligeoを海外の患者さんにお届けすることができ、2016-2020年中期経営計画で掲げた「グローバル・スペシャリティファーマ（GSP）への飛躍」に向けて無事にテイクオフ（離陸）することができました。

今年も半年が終わりましたが、業績はここまでのところ非常に順調です。Crysvitaは、昨年の米国、ドイツ、オランダに続いて今年はイングランド、スウェーデン、イスラエル、UAEなどでも発売し、販売国の増加とともに売上を伸ばしています。米国で発売の始まったPoteligeoも、着実な進展を見せています。国内事業については、昨年4月の薬価改定のマイナス影響があるものの、オルケディア、ジーラスタなどの新製品がしっかり売上を伸ばし、対前年で増収となりました。

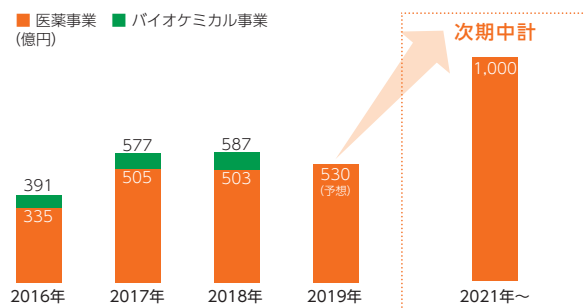
今年上期に我々が実行したグローバルへの飛躍に向けた施策の中から、3つをご紹介します。1つ目は、協和発酵バイオのキリンホールディングスへの譲渡です。これにより当社は純粋な製薬企業となりました。今後、パイプラインの充実や高品質な医薬品の製造、安定供給に経営資源を集中的に投下し、グローバル・スペシャリティファーマとしてさらなる成長を目指します。2つ目は、One Kyowa Kirin体制への移行です。グローバルを意識した、より効率的なグループ経営を行なってまいります。そして3つ目が、「協和キリン」への社名変更です。グループ内の一体感・チームワークを醸成するとともに、世界の皆さんに「Kyowa Kirin」ブランドを浸透させていきます。

協和キリンはこれからも、新しい価値の創造により世界の人々の健康と豊かさに貢献してまいります。引き続き、皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

● コア営業利益

グローバル戦略3品の着実な価値最大化により、
経営目標「コア営業利益1,000億円」[ROE10%以上]
「海外売上比率50%」の2020年代早期の達成を目指す

■ 医薬事業 ■ バイオケミカル事業
(億円)



GSPとしての更なる飛躍を目指した

グローバルレベルで通用する企業グループとなるべく、今年4月より「One Kyowa Kirin」体制を導入しました。これは、日本・EMEA（ヨーロッパ・中東・アフリカ）・北米・アジア/オセアニアの4つの「地域（リージョン）」軸と、製薬会社として必要な「機能（ファンクション）」軸を組み合わせたマトリックスマネジメント体制です。マーケティングは各地域に根差した柔軟な活動を目的としてリージョンヘッドが、研究開発や安全性情報管理、品質管理などグローバル標準が明確な活動は地域を超えてファンクションヘッドが、それぞれマネジメントをおこないます。地域特有の課題とグローバルな課題に対する適切かつ迅速な対応と、グループ内の各種業務の効率化が両立できるところが新体制の強みです。この「One Kyowa Kirin」体制でグローバル化をさらに加速してまいります。

協和キリングroupの事業構造変革

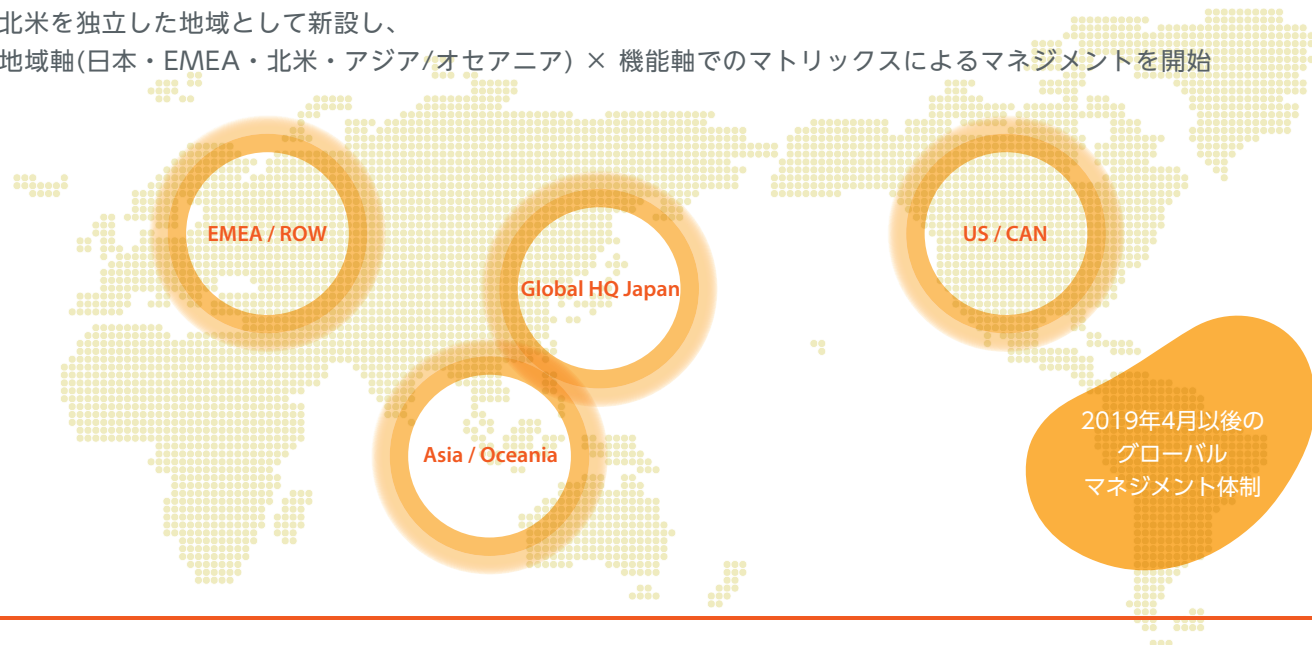
協和発酵バイオの価値最大化と協和キリンの医薬事業への



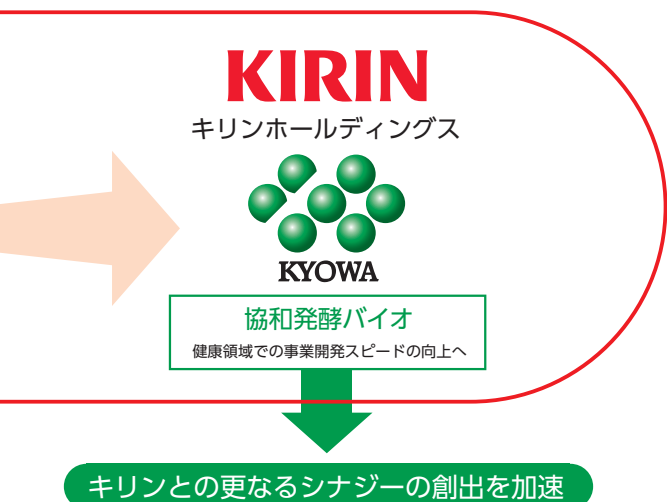
「One Kyowa Kirin」体制の構築



北米を独立した地域として新設し、
地域軸(日本・EMEA・北米・アジア/オセアニア) × 機能軸でのマトリックスによるマネジメントを開始



経営資源集中へ



当社の親会社キリンホールディングスは、既存事業である食領域と医領域に加え、「医と食をつなぐ事業」の立ち上げと育成に取り組んでいます。この中で当社は、協和発酵バイオがキリンホールディングスの直接の子会社となり、「医と食をつなぐ事業」においてその強みを発揮し、経営資源の有効活用や事業開発スピードの向上を実現させることが同社の持続的成長と企業価値最大化につながると判断し、本年4月24日付で、同社の95%の株式をキリンホールディングスに譲渡しました。これにより、当社は新薬開発を中心とした医薬事業に経営資源を集中し、グローバル・スペシャリティファーマとしてその成長スピードをさらに加速してまいります。

連結決算ハイライト (IFRS)

	2019年 (第2四半期)	2019年 (通期予想)
売上収益	1,514億円 (前年同期比 12.7%増)	3,050億円
コア営業利益	322億円 (前年同期比 13.4%増)	530億円
継続事業からの 四半期利益	187億円 (前年同期比 40.8%減)	370億円
非継続事業からの 四半期利益	294億円 (前年同期比 969.9%増)	310億円
四半期利益	481億円 (前年同期比 40.2%増)	680億円

当第2四半期のポイント

国内事業は、昨年4月の薬価改定や後発医薬品の影響がありましたが、リツキシマブBS、オルケディア、ジールスタなど新製品の進捗により、29億円の増収となりました。

海外事業は、昨年発売したグローバル戦略品 CrysvitaとPoteligeoが売上を伸ばし、201億円の増収となりました。

技術収入は、当社が創製しアストラゼネカ社に導出した抗体医薬品ベンラリズマブに関するロイヤルティ収入が増加しましたが、昨年あった優先審査バウチャーの売却収益が今年は無いことなどにより70億円の減収となりました。

グローバル戦略品の販売費・上市準備費用の増加およびパイプラインの進捗に伴う研究開発費の増加により経費は前年より102億円増加しましたが、コア営業利益は38億円の増益を達成しました。

四半期利益については、協和発酵バイオ株式の売却益が約300億円あったことから、138億円の増益となりました。

SDGs (Sustainable Development Goals) 実現への取り組み

SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで全会一致で採択された「持続可能な開発目標」を指します。これは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するため、2030年までに国際社会が達成すべき17の目標のことであり、企業には、ビジネス活動を通じてこれらの目標を達成し、さまざまな環境や社会問題を解決していくことが求められています。



協和キリンが取り組むCSVとSDGs

協和キリンが所属するキリングroupは、社会課題への取り組みによる「社会的価値の創造」と「経済的価値の創造」を両立し企業価値向上の実現を目指す「CSV (Creating Shared Value)」を経営の中核に位置づけています。この取り組みでは、SDGsなど

国際的な動きを参照しながら、取り組むべき社会課題のうち特に重要と思われるものを、「キリングroup CSVコミットメント」として定めています。このコミットメントのうち、当社が重点的に取り組んでいる4つの重要な目標をご紹介します。

取り組みの一例

健康



治療領域の進化

- 画期的な新薬を継続的に創出し、開発・販売をグローバルに展開していきます。
- 安価で高品質なバイオシミラーおよびオーソライズドジェネリックスを提供し、バイオ医薬品のさらなる普及と世界的課題である医療費の抑制に貢献します。

健康経営の実現

- 従業員が積極的に健康作りを行う環境・機会を作っていきます。

健康・未病領域におけるセルフケア実現

- 生涯にわたるクオリティ・オブ・ライフの向上に寄与する、革新性のある商品・サービスや、新規事業の創造にチャレンジします。

環境



環境活動の事業戦略への反映

- 再生可能エネルギーの導入をはじめとしたさらなる温室効果ガス排出量削減の取り組みを進めます。
- 生産活動における水使用量を削減するとともに、水源地の保全活動を継続的に進めます。

当社のSDGs関連の取り組みを紹介するWEBサイト「MIRAI PORT」



協和キリンはこの6月に、当社グループにおけるSDGs関連の取り組みを紹介するWebコンテンツ「MIRAI PORT」を公開しました。この「MIRAI PORT」では、当社グループの取り組みに加え、国内外のSDGsに関する様々なニュースを紹介しています。持続可能な社会の実現に向けて、課題への理解と解決に取り組む機運を高めていきます。

<https://www.mirai-port.com/about/>

ESG投資 — 外部からの評価 —

投資企業の選別プロセスに「環境 (Environment)」、「社会 (Social)」、「企業統治 (Governance)」の視点を組み込む機関投資家が増え、近年ではESGにしっかりと取り組む企業に対する評価が高まっています。

世界最大の機関投資家といわれる年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) は現在4つのESG指数^{*}を選定し運用を行っていますが、協和キリンはこの4指数すべてに採用されています。これからも、協和キリンはESGへの取り組みを進めていきます。

^{*} ESGの観点での評価が高い企業で構成される株価指数のこと



MSCI Japan ESG
Select Leaders Index



MSCI Japan Empowering
Women Index (WIN)

協和キリン(株)のMSCI Indexesへの組み入れ、MSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名称の使用は、MSCIまたはMSCI関係会社による協和キリン(株)の後援、推薦またはプロモーションではありません。MSCI IndexesはMSCIの独占的財産であり、その名称およびロゴはMSCIおよび関係会社の商標またはサービスマークです。